



は海底油田の開発に用いられるプラットフォーム (SUPER CIDS) が我が国で建造されている。

その他、海洋構造物へのPCの適用分野として、沈埋トンネル、ケーソン等の函体相互の接合、ひびわれ幅制御のためのプレストレス導入など、次第にその応用範囲が広がりつつある。

以上のように、PC海洋構造物の歴史は約30年前のセル形防波堤に始まり、約20年前からPC栈橋、浮体構造を中心に実績を伸ばし、最近では新形式の防波堤が施工されるようになった。

[記：秦 隆司 ((株)ピー・エス)]

●PC 防災構造物の歴史●

PC 防災構造物の代表例としては、雪崩・落石・崩土対策用のシェッド、地吹雪・降雪対策用のシェルター、落雪・落石対策用のキーパー (イ型)、雪崩・落石の予防・防止用の柵等があげられ、いずれもオールプレキャ

スト形式のものが多用されている。

PCシェッドは昭和40年代に入って建造され始め、施工総延長は推定で約80km以上と予想されている。PCシェルターは昭和60年前後から建造され始め、施工総延長は約6kmにわたっている。キーパー (イ型) や柵は昭和50年代中頃から建造され始めてきている。

PC 防災構造物の標準化は昭和60年に入って全国各地で盛んに行われ、主に官・学・民による委員会で審議されている。スノーシェッドについては昭和61年に逆L形が、また昭和63年に門形が北陸地方で標準化されており、ロックシェッドについては昭和63年に逆L形が九州地方で標準化されている。スノーシェルターについては、昭和63年に一旦標準化された後、平成3年にあらためて北陸地方および北海道で標準化されている。

今後の標準化の見通しとしては、平成5～6年に雪崩予防柵が北陸地方で、またロックシェッドについては落石対策便覧の改訂の後に標準化作業が始められるものである。

[記：若林 修 (日本サミコン (株))]

◀刊行物案内▶

第 2 回 プレレストコンクリートの 発展に関するシンポジウム 論 文 集

(平成3年11月)

本書は、平成3年11月に奈良で開催された標記シンポジウムの講演論文集です。

頒布価格：6 000 円 (送料 450 円)

体 裁：B5判、箱入り

内 容：特別講演2編 (10頁)、講演論文集72編 (350頁)